

2025年7月6日

## 「わが国古代国家の成り立ちと東国」

横浜歴史研究会

長尾正和

### はじめに

- ・ わが国の古代国家形成の歴史については、関連する多くの分野について、これまで多くの学者たちによる詳細かつ膨大な研究がある。
- ・ 考古学や文献史学などの各分野の研究は近年になりさらに進み、その成果によりわが国古代国家の成り立ちについて、一つの方向性が示されてきた。
- ・ これまで古代史を語る時、ほとんどが北九州を含む近畿より西の地域が対象になっている。しかし、古代国家として成り立つには東国(東日本)も包含される必要がある。
- ・ この点も含め、わが国がどのような過程で国として成り立ってきたか、現時点での個人的理解を以下まとめることとする。

### 1. わが国の国家形成： 弥生時代後期から古墳時代前期

#### 1) わが国国家形成－七五三論争

- ① わが国の古代国家形成論については「七五三論争」と呼ばれる説がある。やや大雑把ながらそれぞれの説のポイントは次であろう。
  - ・ 3世紀説： **卑弥呼** (248~249年ころ没) および台与(3世紀後半)の時代。
  - ・ 5世紀説： **倭の五王**の時代。倭王「武」が479年宋に宋に遣使した際に、その上表文で国土統一を謳っている。
  - ・ 7世紀説： 645年**大化の改新**に始まり、701年大宝律令の制定により、法の下での国家が始まり、7世紀後半には「日本国」との呼び名が使われ始める。

- ② これらの違いは「国家の成立」をどう見るかによる。
- ③ 本稿では紀元1世紀ころからの国家形成の動きを含め見ることとする。

#### 2) 弥生時代の終焉と大型集落

- ① 弥生時代は紀元10世紀ころに始まり3世紀前半まで続いたとする。この間、わが国各地の弥生集落は次第に「ムラ」を形成し、さらに社会的、政治的体制を発展させ大型集落化してゆき、いわゆる「クニ」を形成するようになる。
- ② これら大型集落は、弥生時代後期には近畿より西においては広範囲、かつ多数存在したことが分かっている。代表的な遺跡は下記：
  - ・ 福岡： **平原遺跡、三雲南小路遺跡、板付遺跡、須玖岡本遺跡**
  - ・ 佐賀： **吉野ヶ里遺跡(100万㎡)** 等
  - ・ 近畿： **池上・曾根遺跡(大阪、60万㎡)、唐古・鍵遺跡(奈良、30万㎡)、伊勢遺跡(滋賀、30万㎡)**
  - 中国： **妻木晩田遺跡(島根、150万㎡)**  
**西谷墳墓群(島根)、楯築遺跡(岡山)**

#### 3) 倭国成立－紀元1～2世紀

- ① 弥生時代後期、すなわち紀元1～2世紀、北九州等を含め、西国にはこのような「クニ」が各地に存在し、「倭国」が出来ていたことが中国史書に記されている。(「後漢書・東夷列伝」現代語訳「倭国伝」、以下「後漢書」)
  - ・ 「倭は、漢の東南大海の中に在り、…**凡そ百余国あり。**」
  - ・ 「武帝の朝鮮を滅ぼして(**紀元前108年**)より、使駅の漢に通ずるもの三十許(ばかり)の国有りて国ごとに皆王と称し、世世統を伝う。その

大倭王は邪馬台国（やまとこく）に居（すま  
い）す。」

② これらのクニは後漢との関係を深め朝貢もしてい  
る。

- ・「建武中元2年（紀元57年） 倭の奴国、  
貢ぎを奉げて朝貢す」
- ・「安帝永初元年（107年） 倭国王の帥  
升等、生口百六十人を献じ、願いて見えんこと  
を請う。」（「後漢書」）

#### 4) 「倭国乱」 - 2世紀後半

① 2世紀後半、これらのクニ同士に乱、「倭国  
乱」が起きる。しかし、これはこれらの「クニ」が卑  
弥呼を王として共立することで治まったとする。

- ・「桓零の間（146~189年） 倭国大いに乱  
れ、さらに相功伐し、年を歴（ふ）るも主無し。  
1女子あり、名を卑弥呼と言ひ、…是（ここ）  
に於いて、（倭国の人）は彼女を）ともに立てて  
王と為す。」（「後漢書」）

② 「卑弥呼が女王になったのは188年ごろ」（石  
野・邪馬台国）、あるいは3世紀初め（寺沢・  
Aera）である。

③ 後漢王朝は紀元184年の黄巾の乱以後統  
治機能を次第に失い、220年に滅亡、代わつ  
て魏・呉・蜀の三国時代となる。

④ 遼東半島の公孫氏は、後漢王朝の崩壊に乗  
じて、204年朝鮮半島に帯方郡を設置する。  
209年ごろ卑弥呼は帯方郡に属す。（寺沢・  
卑弥呼）

⑤ 倭国乱の実態は、「（倭国乱は）後漢王朝をバ  
ックに求心力と政治権力を持っていたイト（伊  
土）倭国が後ろ盾を失ったのを契機に、自分  
たちこそ倭国の中心地になろうという諸国の王  
が名乗りを上げ出したのが「倭国乱」の実情だ  
ったと思う」（白石他・纏向）

- ・なお、倭国乱は戦乱が起きたのではなく政治的な  
混迷であったという。考古学的裏付けが見当たら  
ないためである。

#### 5) 邪馬台国女王卑弥呼と魏への朝貢

##### - 3世紀前半

① 共立された卑弥呼が住む都は邪馬台国（や  
まとこく）である。（「魏志倭人伝 = 三国志魏書  
烏丸鮮卑東夷伝」・現代語訳「倭国伝」）

そこまでの道程については、「（帯方）郡より倭に  
至るには、…伊都国に至る。…世王あり。皆、  
女王国に統属す。…南して邪馬台国（やま  
とこく）に至る。女王の都する所なり。」

② 卑弥呼は帯方郡の公孫氏を通じ魏との関係を  
築き、景初2年（238年）に「親魏倭王」の  
称号を得る。

- ・「景初二年6月倭の女王、太夫難升米を遣わ  
して（帯方）郡に詣（いた）らしめ、…。其  
の年12月詔書ありて倭の女王に報（こた）え  
て曰く、親魏倭王卑弥呼に制詔す。…今汝を  
以て新魏倭王と為し、金印・紫綬を假（あ  
た）え装封して帯方の太守に付して汝に假授  
せしむ。」

③ 卑弥呼はこののち正始元年（240）および同4  
年（243）にも魏に朝貢している。

④ しかし、この時点でも卑弥呼倭国にはまだ従わ  
ないクニがあったことも中国史書に記されてい  
る。「狗奴国」である。

- ・正始8年（247年）、卑弥呼はこの状況を魏に伝  
えている。これに対し、魏はその対応策を卑弥呼に  
説いている。

- ・「其の（正始）8年（247年）（帯方郡の）太  
守王頎（おうき）、官に至る（着任）。倭の女  
王卑弥呼、狗奴国の男王卑弥弓呼（ひめく  
こ）と素より和せず。…、相攻撃する状（さ  
ま）を説く。塞（国境守備の官）…張政等を  
遣わし、因りて詔書・黄幢（こうどう）を齎（もた  
ら）し、難升米に拝假せしめ、檄を為（つく）り  
て之に告諭せしむ。」（「魏志倭人伝」）

#### 6) 卑弥呼の死と台与、倭国のまとまり

##### 3世紀後半

① 卑弥呼は247~248年ごろ亡くなってい  
る。そののちふたたび倭国が乱れるが、宋女で

**13歳の吾与（台与）**が擁立されることにより治まる。

- ・「卑弥呼以（すでに）死し、大いに塚を作る。徑百余歩なり。…更（あらた）めて男王を立つけれども、國中服せず。さらに相誅殺す。（倭人）また卑弥呼の宋女**吾与（とよ）**、年十三なるものを立てて王と為す。國中遂に定まる。」（『魏志倭人伝』）

- ② この台与の時代（**3世紀後半**）には「狗奴国」と和し、わが国がほぼまとまった見てよい。
- ③ 台与はこののち泰始2年（**266年**）、魏の滅亡ののち晋（265年発足）に朝貢する。（『晋書・四夷伝』）
- ④ 中国史書では、このあとの倭国の情勢については150年ほどのちの義熙9年（**413年**）、**倭五王「讚」**が「晋」に対し朝貢したとの記事（『晋書』）まで触れられていない。わが国形成については「**空白の4世紀**」と呼ばれるのは良く知られている通りである。

## 7) 纏向遺跡の出現 – 2 – 3 世紀

- ① 考古学的側面から見ると、奈良・ヤマトの地に2世紀後半（倭国乱時代）から弥生遺跡である**唐古・鍵遺跡**が解体に進み、そのころ近くのヤマトの地において「**纏向遺跡**」が出現する。
  - ・ 180年代ころ纏向に運河である大溝がつくられ、マチ造りが始まる。それまでの農作中心の弥生遺跡と大きく異なる都市遺跡である。（**藤田・唐古鍵遺跡、石野・邪馬台国**）
  - ・ 広さは「藤原京」「平城京」に匹敵。（**纏向デジタルミュージアム**）
- ② 遺跡の初期の土層での土器は180 – 210年代頃のものである、この時期には近くの「**唐古鍵遺跡**」の土器量が急激に減っている。
- ③ ここには2世紀末から外来形土器が増え始める。もっとも多いのは3世紀、**210年ころから280 – 290年ころ**にかけてである。
  - ・ 外来系が全体の15 – 30%であることから、纏向の人口の5人に一人程度が纏向外からの人と推定されている。
  - ・ 土器は**オワリ・イセの東海系**が非常に多く、49%とほぼ半分を占め、山陽北陸17%、河内10%、

関東5%。九州のものは非常に少ない。

- ④ また**宮殿**と考えられる大型建物跡も発掘され、出土遺物から3世紀前半、すなわち卑弥呼の時代の築造と考えられている。さらに纏向遺跡の繁栄期は3~4世紀としている。

## 8) 纏向型前方後円墳 – 3 世紀初頭以降

- ① 古代の墳墓、古墳は全国に165万基あるという。このうちヤマト王権にかかわるとする前方後円墳は4700基ほどである。
- ② その原型である**纏向型古墳**は、卑弥呼から台与に続く時代、**3世紀初頭から後半（卑弥呼および台与時代）**にかけて、奈良・纏向地域に現われる。いずれも全長100m前後。
  - ・ **纏向石塚古墳**： 3世紀初頭築造。纏向で最古。弧紋円盤（吉備との関係がありうる）出土。 – **纏向勝山古墳 – ホケノ山古墳 – 纏向矢塚古墳 – 纏向東田古墳**

## 9) 巨大前方後円墳の出現 – 3 世紀後半以後

- ① 3世紀後半（**台与の時代**）、纏向型古墳をはるかに上回る巨大な前方後円墳が出現、「**箸墓古墳**」、（全長278m）である。
  - ・ 箸墓古墳造営年は、異論はあるものの**250±10年**（日本考古学協会、2009年）とされている。
  - ・ 被葬者については**卑弥呼**とする説（白石・邪馬台国）が多い。
  - ・ ただし、**台与**（石野、橋本）説も多い。その場合卑弥呼の墓はホケノ山古墳としている。
- ② 「記紀」では、この古墳の被葬者は実在の初代天皇とされる⑩崇神の項に「**倭迹迹日百襲姫命**（崇神の伯母、孝霊天皇皇女、大物主妻）」であると、記されている。さらに彼女は「聡明で、良く物事を予知された」と記している。**卑弥呼**の呪術による予言を思い起こさせないか。
  - ・ 彼女が被葬者であると、以前より主張している説（**笠井**）が近年改めて注目されている。

## 10) ヤマト王権の始まり - 3世紀後半

- ③ 歴代天皇の实在年についての議論、いわゆる「天皇紀年論」はかなり長い間論争が続いているが、最近受け入れられるようになっているのは**笠井倭人説**である。
- これによれば实在の初期天皇の没を次と提唱。
    - 10代崇神 309/312年
    - 11代垂仁 330/333年
    - 12代景行 355/358年
  - すなわち在位したのは⑩崇神は**3世紀後半**から**4世紀初頭**、⑪垂仁、⑫景行は**4世紀前半**。
- ④ 4世紀以後、ヤマトには箸墓古墳に続き、次々に巨大前方後円墳(全長200m以上)誕生する。築造年は前記推定没年と大きな齟齬はない。
- 行燈山古墳**：大和柳本古墳群 4世紀前半築造 242 m。⑩崇神陵治定 推定没年 301年、または 317年等(笠井・紀年、以下同じ)
  - 渋谷向山古墳**：大和柳本古墳群 4世紀中期~後半築造 300 m ⑫景行陵治定
- ⑤ このような状況を踏まえれば、**3世紀後半**においてヤマト王権が始まり、わが国**古代国家の始まり**ができたと考えて良いであろう。



ヤマト王権地域

出典：「歴史道・古代史の謎」

## 2. ヤマト王権成立までの東国

### 1) 弥生時代の終焉 - 3世紀前半

- ① これらのヤマト王権始まりまでの過程において、東国はどのような状況であったか、あらためて見てみることにする。
- ② 弥生遺跡は、東国においても、多数見られる。
- ある程度規模のある遺跡には次のようなものがある
    - しかし、「クニ」と想定されるような大規模集落は近畿以西と比べると非常に少ないと言える。
      - 中高瀬観音山遺跡 (5万㎡)、日高遺跡 - 群馬
      - 池守・池上遺跡 - 埼玉
      - 国分寺台遺跡、長平台遺跡 - 千葉
      - 登呂遺跡 (10万㎡) - 静岡
- ③ 東国で唯一「クニ」とみられる規模の弥生遺跡は**朝日遺跡**(名古屋市・清須市、**80万~100万㎡**)であり、**吉野ヶ里(100万㎡)**に匹敵する重要な遺跡との評価がされている。
- 朝日遺跡は弥生時代前期から古墳時代前期の遺跡で、木曾3川(木曾川、長良川、揖斐川)が流れる濃尾平野にある。
  - 愛知県清須市から名古屋市西部にまたがる東西1.4km、南北0.8km、推定80~100万㎡の大規模集落遺跡。推定人口約1000人。
  - 弥生時代の墓制、方形周溝墓は300基以上あり、多くが1辺10メートル以下だが、1辺30mを超える大型も存在。
  - 弥生中期後葉以後には**前方後方形の墳丘墓**が出現。1辺が10メートルを超える。
  - このあとこれらは前方後方形へと進化し、東海系のこの形の墳墓および土器等が主に東日本へ広がりをもちようになると指摘されている。(赤塚・狗奴国)
- ### 2) 東海地域：前方後方墳の出現 - 3世紀後半~4世紀前半
- ① **前方後方墳**という古墳形態は、ヤマト王権支配の象徴とされる前方後円墳とは異なる葬送文化になるが、全国でも500基ほどと多くはな

い。しかし、その大型のものが三世紀後半(台与の時代)から4世紀中ごろにかけて主として東海地方に現れる。東海地方での50㍍以上の大型の築造は次の通り。

- ・ **東之宮古墳**： 岐阜・犬山市、**濃尾平野** 東端。**3世紀後半/4世紀**築造 全長 67㍍ 竪穴式石槨、豊富な副葬品。
- ・ **二子古墳**： 愛知・安城市、**濃尾平野南東**。**3世紀後半~4世紀初頭**築造。全長 68㍍。
- ・ **宇都宮神社古墳**： 愛知・小牧市 **3世紀末~4世紀** 59㍍
- ・ **高尾山古墳**： 静岡・沼津市 3世紀半ば~後半、62㍍。

② 東国の他の地、北陸、甲信、関東などでも次のような大型前方後方墳が築造されている。

- ・ **柳田布尾山古墳**： 富山・氷見市 3世紀末~4世紀初頭 107.5㍍。
- ・ **弘法山古墳**： 長野・松本市 3世紀中ごろ~4C中ごろ 63㍍。
- ・ **鷲山古墳**： 埼玉・本庄市 3世紀末~4C初頭 60㍍。

③ 東海地方では4世紀中ごろの**青塚古墳**(愛知・犬山市)以後**前方後方墳**は築造されなくなり、**前方後円墳**に転換している。これ以後はヤマト王権の影響がそのまま伝わったと理解できる。

### 3) 関東での前方後方墳 – 4世紀後半

① この前方後方墳形式は、東海地方だけでなく関東にも伝わっている。時期は少し遅れているが4世紀中ごろから末にかけ、東海地方のものよりさらに大型化した前方後方墳が造営される。

- ・ **藤本観音山古墳**・栃木足利市 4世紀中 117.8㍍。前方後方墳では全国5位の規模。被葬者は**上毛野氏御諸別王**との推定がある。

- ・ **(前橋)八幡山古墳**： 群馬・前橋市 130㍍ 4世紀中ごろ~後半築造、前方後方墳として全国4位の規模。
- ・ **元嶋名将軍塚古墳**： 群馬・高崎市 75㍍ 4世紀後期。

・ 群馬における前方後方墳で出土の土器は**東海系土器**の分布が濃厚である。東国の古墳は東海・北陸からの移住民が先導したという。(若狭)

② 関東ではこの前方後方墳は、東海地方より少し遅れ、一部地域を除き5世紀以後は築造されなくなる。

### 4) 「狗奴国」

① では、ヤマト王権のシンボルとは異なる**前方後方墳**という葬送形態を持つ東海地方にはどのような勢力があったのか。

- ・ これらの**造営**が3世紀に濃尾平野で始まっている、あるいは土器の移動に関する研究等から、ここに大きな勢力があったことが次第に明らかになってきたこともあり、近年では「**狗奴国**」とはこの濃尾平野・伊勢湾を中心とする東海地方ではないかとする説(**赤塚・狗奴国他**)が重要視されている。

② 卑弥呼倭国に従っていなかった「**狗奴国**」とは、台与の時代(3世紀後半)に和が成立したとみてよい。

この「**狗奴国**」の地については、次のように記されている。「…次に奴国有り。此れ女王の(治る)境界の尽くる所なり。その南には**狗奴国**あり、男子を王と為す。その官には**狗古智卑狗**(くちひこ)有り、女王国に属せず。」(**魏志倭人伝**)とされている。

- ・ これに基づき**狗奴国**はこれまで九州(肥後等)、近畿(奈良等)などいくつかの説が出ていたが定説はまだ出ていない。

- ・ また、近年では魏志倭人伝の解釈も少し変わり「**南**」は、意図的にそのように書かれたもので、「**東**」と理解すべきとの説がほぼ受け入れられている。

③ 東海地方 = **狗奴国**の可能性については次のような説(**白石・東国**)は非常に納得感がある。少し長いが要約すれば：

- ・「3世紀のはじめ頃それまで朝鮮半島の鉄資源の入手ルートの支配権を独占していたのは玄界灘沿岸地域。」
- ・「その支配権を奪うためにヤマトを中心とする畿内の勢力と瀬戸内海沿岸各地の勢力が連合して玄界灘沿岸を抑えたのが、邪馬台国を中心とする倭国連合にほかならない。」
- ・「この邪馬台国連合と対等に戦えるような勢力は考古学的な状況証拠からは**濃尾平野**以外には考え難い。**狗奴国**は濃尾平野を中心に形成されていた弥生時代中期以来の原生国家である。
- ・3世紀前半、東日本にはこの濃尾平野零の狗奴国を中心に東海、・・・北陸、関東を含む広域の政治連合が形成されていたものと想定。」
- ・台与の時代に狗奴国との倭が成立した結果、「こうして畿内から瀬戸内海沿岸をへて北部九州至る地域に形成されていた邪馬台国を中心とする広域の政治連合に東日本の広大な地域が加わることになった。」

## 5) 尾張氏

- ① さらにこの狗奴国を治めていたのはどのような勢力であったか。この点の研究はあまり見当たらないが、「尾張氏」であった可能性につき次の意見がある。  
「2世紀末から3世紀初頭に奈良盆地・・・に東海勢力がなだれ込み、さらに纏向遺跡が誕生していた。これが日本建国につながっていく。纏向遺跡に集まってきた外来系の土器の半数が東海系のものだった。・・・この事実だけでも東海勢力は日本建国に関わっていたことがわかる。日本建国のきっかけを作った東海の王の末裔が尾張氏だった可能性が出てくる。」(関・尾張氏)
- ② 尾張氏は濃尾平野周辺を支配した豪族であったと考えられ、「記紀」では、神代まで遡る家であり、祖神は天火明命、始祖は天忍人命という。すなわちヤマト王権成立以前から存在していた家であることが明白である。
- ③ また、尾張一族はヤマト王権発足頃の天皇家

とすでにいくつか姻戚関係があったことも記されている。

- ・ ⑤孝昭の後妃世襲足媛（よそたらしひめ）は尾張連一族とされる。
- ・ 初の実在天皇⑩崇神（3世紀後半～4世紀初頭）の妃の一人が**尾張大海媛**（おわりのおおあまひめ）である。
- ・ この他ヤマト王権発足間もなくの時代にも天皇家と尾張氏の繋がりを表す記事がいくつか見られる
- ・ 尾張氏の子孫**乎止与命**（おとよのみこと）は⑬成務時代（4世紀半ば）**尾張国造**に任命されている。
- ・ その息子**建伊那陀宿禰**は⑫景行、⑬成務に仕えヤマトタケルの東征では副将軍を務めている。
- ④ また娘である**宮簀媛**（みやずひめ）は⑫景行（4世紀）の子日本武尊（ヤマトタケル）の妃の一人である。
- ・ ヤマトタケルは景行40年東国制圧に出る。伊勢神宮において叔母にあたる⑭垂仁皇女**倭建姫**（やまといひのみこと）から、**草薙剣**が授けられる。東征を果たし、尾張で**宮簀媛**を娶る。かれは**草薙剣**を彼女に預け、伊吹山征伐の帰路鈴鹿川で亡くなる。
- ・ **宮簀媛**はこの剣を奉り、鎮守の地を熱田とし、祠を立てたのが**熱田神宮**であり、尾張氏が代々宮司を務める。－Wikiヤマトタケル・草薙剣
- ・ その後も尾張氏と天皇家の関係は続いている。⑯**継体**（6世紀初め）の皇后は⑭仁賢皇女手白香皇女であるが、妃の一人が**尾張草香**の娘**目子媛**（めのこひめ）であり、第一子は⑯安閑である。
- ⑤ このような点から**狗奴国**をまとめていたのは**尾張氏一族**であった可能性は十分あると考えてよいのではないか。研究についての今後の進展を期待したい。

## 3. ヤマト王権下：東国での前方後円墳

### 1) 前方後円墳－4世紀

- ① 東国では、4世紀になってヤマト王権同様に大型の前方後円墳が築造されるようになる。
  - ・ まずこの時代170年<sub>前後</sub>の3大古墳が次のように出現する。
  - ・ 前方後円墳はヤマト以外の地でも築造されるが、

関東では吉備や九州より早く築造されている。また、規模も大きい。

- ・ **甲斐銚子塚古墳** 山梨・甲府市 169<sup>㍻</sup> 4世紀後半築造 東日本最大級。
- ・ **浅間山古墳** 群馬・高崎市 171.5<sup>㍻</sup> 4世紀末築造。築造時東日本最大。佐紀陵山古墳の4/5相似形。
- ・ **雷神山古墳** 宮城・名取市 170<sup>㍻</sup> 東北最大の規模 4世紀末。

② 他にも100<sup>㍻</sup>を超える古墳が出現する。

- ・ **前橋天神山古墳** 群馬・前橋市、全長129<sup>㍻</sup> ヤマト王権初期の**4世紀前半から中ごろ**にかけての築造。出土品も非常に多い。中でも銅鏡は、箸墓古墳後の時期に築造された**桜井茶臼山古墳**(奈良・桜井市、207<sup>㍻</sup>)出土のものと同じ鑄型で製造されたものとされている。
- ・ **青塚古墳** 愛知・犬山市 123<sup>㍻</sup> 東海は4世紀中ごろ出現。大荒田命の墓との伝承。
- ・ **会津大塚山古墳** 福島・会津若松市 114<sup>㍻</sup> 4世紀後半 四道将軍伝承あり。三角縁神獣鏡出土。
- ・ **亀ヶ森古墳** 福島・会津坂下町 129<sup>㍻</sup> 4世紀後半。
- ・ **昼飯大塚古墳** 岐阜・大垣市 150<sup>㍻</sup> 岐阜県最大 4世紀末。

## 2) 前方後円墳 – 5世紀~6世紀

① 5世紀に入り、関東ではさらなる大型古墳が出現する。特に上毛野地域・現群馬では最大規模の古墳が出現。これは「群馬(旧上毛野)地域の人口や経済力の大きさを示すとともに上毛野氏等がヤマト王権での格式の高さを示すものとの指摘がある。(若狭・東国)

- ・ **太田天神山古墳** 群馬・太田市、210<sup>㍻</sup>、東日本最大、全国で28位。**5世紀第2四半期**築造。倭五王時代であり、墓山古墳(古市古墳群、菅田山古墳倍塚)と同じ設計。朝鮮半島径文物も出現。被葬者は**上毛野竹葉瀬**との推定がある。
- ・ **舟塚山古墳** 茨城・石岡市・霞が関北方、186

<sup>㍻</sup>) 大きさ関東第2位**5世紀後半終わり**ごろ築造。墳丘は未調査。大量の刀が出土したという言い伝え有り。

- ・ **梵天山古墳** 茨城・常陸太田市 5世紀 151<sup>㍻</sup>
- ・ **稲荷山古墳** 埼玉・行田市 埼玉古墳群 120<sup>㍻</sup> 5世紀後期築造 **金錯銘鉄剣出土**
- ・ **薬師塚古墳** 群馬・高崎市 保渡田古墳群 105<sup>㍻</sup> 5世紀末~6世紀初頭築造

## 4. ヤマト王権の政治支配体制

### 4 ~ 8 世紀

#### 1) 全国支配体制の構築

- ① 大和朝廷の実在の初代天皇は⑩崇神とするのが近年のほぼ定説である。
  - ・ 諱(いみな)は御間城入彦尊(みまきいりひこのみこと)、別称 御肇國天皇(はつくにしらすめれみこと)。
  - ・ 古代天皇の実在年研究も進んでおり、すでに触れた通り、笠井倭人説が重要視されており、⑩崇神の在位は293~309年、あるいは296~312年と考えられている(以下天皇没年はこの説れによる)。すなわち、3世紀終半から4世紀初めの在位である。
- ② このヤマト王権は東国を含む全国の統治支配体制確立に進む。
  - ・ 崇神は全国の支配に向け**四道将軍**を派遣する。**大彦命**(⑧孝元第一王子)を北陸道、**武渟川別命**(大彦命の子)を東海道、**吉備津彦命**(⑦孝霊の子)を西道、**丹波道主命**(⑨開化の孫)を丹波道へ、である。
- ③ ⑫景行(在位330~355年、または333~358年)の時代には子の倭健命(**ヤマトタケル**)が東征に向かい、4世紀にはヤマト王権の地方支配が進んだと考えられる。

#### 2) 屯倉設置 4世紀初め

- ① 4世紀前半には朝廷の直轄地「屯倉」を設置。
  - ・ 始まりは⑪垂仁時代、すなわち4世紀初めころか

ら。ただし、しばらくはほとんどが近畿地方であり、5世紀に中国地方に広がっている。

- ② 東国での屯倉の設立は㉗安閑時代、**6世紀**であり、武蔵、尾張、上毛野、駿河等4地域に置かれている。
- ・ 武蔵では、埼玉・比企、多摩、横浜・日吉および南東部等に設置されたと考えられている。
- ・ 次の㉘宣化でも尾張、伊勢、伊賀等にも設けられる。
- ・ ㉙幸徳、すなわち**7世紀**にも東国に2か所設けられたとするが、具体的な場所は分かっていない。

### 3) 国造の設置 4世紀

- ① 「国造」制度もヤマト王権発足すぐ後に始まったことも知られる。
- ・ 「**国造**」は各地において軍事権・裁判権を含む自治権が認められた長である。この地位は朝廷から有力な豪族が派遣されたか、あるいは朝廷の支配下となった在地豪族が任命された。
- ② 崇神以後次第に任命され、㉓成務期に一斉に設置されたとされる。
- ・ 東国の主要地での国造設置の時期は下表のとおり。これら国名はのちの801年大宝律令で定められた令制国名であり、このころのおおむねの地域と重なる。

		<国造任命>				
		4世紀		5世紀		
		① 神武	⑩ 崇神	③ 成務	⑤ 応神	⑥ 仁徳
東海	伊勢			尾張、三河、遠江、駿河		
関東			上野	相模、武蔵、上総、常陸、安房	下総	下野(下毛野)
東北				陸奥	常陸(一部)	
北陸			越後	越中、越前	加賀	

出典：Wikipedia

### 4) 律令国制定と国司の派遣 7世紀

- ① 7世紀半ば孝徳天皇より東国への国司派遣の詔が出され、「国司」制度が始まる。朝廷の地方支配体制の明確化である。
- ・ 「**大化元年(645年)8月5日条**：東北の国司を召された。国司らに詔して天津神の命ぜられるままに今はじめて日本国内の全ての国々を治めようと思う。およそ国家の

所有する公民や大小の豪族の支配する人々について汝らが任国に赴いてみな戸籍をつくり田畑の大きさを調べよ。」

### 5) 上毛野氏 東国の豪族

- ① わが国がヤマト王権の下でまとまる過程においては近畿以西の地におけるいくつかの在地豪族が大きく貢献したと考えられている。
- ② 4世紀以後関東一帯における大きな勢力を有していたことが知られるのは**上毛野氏**である。その祖はもとはといえば㉚崇神の子、**豊城入彦命**とされていることから、ヤマト王権以前からの在地豪族ではないのであろう。
- ③ 上毛野一族はヤマト王権の下で東国の支配、ならびに対外外交において重要な役割を担った豪族であることが知られている。
  - ・ その孫**彦狭島命**は ㉛**景行**の時代(**4世紀前半**)、東山道十五国都督となり、その子(3世孫)**御諸別王**が跡を継ぎその子孫が東国をおさめたという。
- ④ 四世孫の**荒田別**および**鹿我別**は書紀神功皇后記(**4世紀後半**)によれば、朝鮮半島に將軍として派遣され新羅征討に参戦している。
- ⑤ 5世孫竹葉瀬(たかはせ)は仁徳天皇53年(**5世紀前半**)に新羅の問責のため派遣されたとされる。

### 6) 半島からの難民・亡命者の受け入れ

- ① 東国には、7世紀以後朝鮮半島からの難民を多く受け入れている。
- ・ 663年(天智2年)8月、わが国は白村江の戦いで唐に敗れるあと、**天智5年(666年)**には200余人の百済からの亡命者や難民を東国に住まわせている。
- ・ また、持統元年(**687年**)、**持統4年(690年)**には新羅からの亡命者を「武蔵国に住まわている。

### 7) 牧の運営

- ① 東国、特に上毛野(群馬)では馬の生産が盛んであった。

- ② 馬は、**391～404年**における高句麗との戦いでその騎馬軍団の重要性に気付き、馬を飼育、調教職人と共にわが国に入れている。
- 5世紀半ば築造の東日本最大の太田天神山古墳には数多くの馬型埴輪が出土。
- ③ 上毛野氏は、馬の生産・供給で古代の軍事・行政に深く関与し、地方豪族として朝廷との関係を築いていた。
- ④ 7世紀以後、「牧」は朝廷の直接管理も行われるが東国はその重要な地であった。
- 8世紀には、甲斐・武蔵・信濃・上野の4か国に朝廷直轄の32の「牧」が設置されている。

## 8) 東国各国のランク付け

- ① ヤマト王権の立ち上がりののち、東国各地は国力が増し、朝廷への貢献は非常に大きくなる。
- 東国における旧国の朝廷での位置づけは大分のちの10世紀に定められた延喜式から、ある程度推測できる。

延喜式による国力区分						
	畿内		近国		中国	
大国	2	大和国、河内国	3	伊勢国、近江国、播磨国	1	越前国
上国	2		9	尾張国、三河国、美濃国、備前国、美作国、但馬国、因幡国、丹波国、紀伊国	12	遠江国、駿河国、甲斐国、信濃国、加賀国、越中国、伯耆国、出雲国、備中国、備後国、阿波国、讃岐国
中国			2	若狭国、丹後国	1	能登国
下国	1	和泉国	3	伊賀国、志摩国、淡路国	2	伊豆国、飛騨国
	5	0	17	0	16	0
	国数計		67		29	
	出典：Wikipedia「令制国」より作成					

- ② 旧国は701年大宝令時点では58国3島である。これらはその国力の大きさにより分類されている。この中で大国とされているのは次の通りであり、東国勢力が大きな比重があったことが分かる。
- 近畿以西 6か国**：大和、河内 伊勢、近江、播磨、肥後
  - 東国 7か国**：越前 武蔵、上総、下総、常陸、上野、陸奥

## 主な参考資料

- 笠井倭人「上代記年に関する新研究」1953年10月
- 宇治谷 孟「全現代語訳 日本書紀 上・下」講談社 学術文庫 1988年6月・8月
- 石野博信「邪馬台国の候補地 纏向遺跡」新泉社 2008年12月
- 赤塚次郎「幻の王国・狗奴国を旅する」風媒社 2009年12月
- 奈良県立図書情報館編「邪馬台国塗膜剥く遺跡」2011年8月
- 橋本輝彦「邪馬台国からヤマト王権へ」奈良大ブックレット ナカニシヤ出版 2014年32月
- 石野博信ほか「倭国乱とは何か」新泉社 (x)2015年6月
- 白井石太郎他「纏向発見と邪馬台国の全貌」Kadokawa 2016年7月
- 若狭徹「前方後円墳と東国社会」吉川弘文館 2017年1月
- 藤田三郎「大和王権誕生の礎となったムラ 唐子・鍵遺跡」新泉社 2019年4月
- 石野博信「邪馬台国時代の王国群と纏向王宮」新泉社 2019年4月
- 白井石太郎「東国の古墳と古代史」吉川弘文館 2022年10月
- 寺沢薫「卑弥呼とヤマト王権」中公選書 2023年3月
- 関裕二「消された王族 尾張氏の正体」PHP新書 2024年8月
- Wikipediaほか関連Website

以上

以上

資料1

< 東日本 前方後方墳 一覧 >				墳丘長 60m以上		備考・Wiki等
地域	都道府県	市町村	名称	墳丘長	築造時期	
東海	静岡	沼津市	高尾山古墳	62	3C中	木棺直葬 出土品多数、古墳出現期の東日本では最古級かつ最大級 250年ごろ築造
東海	愛知	安城市	二子古墳	68.2	3C後~4C	桜井古墳群 出土品無し
東海	愛知	犬山市	東之宮古墳	67	3C後~4C	竪穴式石槨、銅鏡11面・石釧・鉄製武器・Y字型鉄器
北陸	富山	氷見市	柳田布尾山古墳	108	3C末~4C初	粘土槨
甲信	長野	松本市	弘法山古墳	63	3C末~4C中	四獣鏡、鉄剣、勾玉など
関東	埼玉	本庄市	鷺山(さぎやま)古墳	60	3C末~4C初	
関東	栃木	那珂川町	駒形大塚古墳	64	4C初	銅鏡・銅鏃・鉄製品・ガラス小玉
関東	群馬	前橋市	八幡山古墳	130	4C中	竪穴式石室
関東	栃木	足利市	藤本観音山古墳	118	4C中	
北陸	石川	中能登町	小田中亀塚古墳	62	4C後	皇族墓「大入杵命墓」治定
東北	福島	郡山市	大安場古墳	83	4C後	東北地方最大、粘土棺の床に割竹形木棺
関東	群馬	高崎市	元島名将重塚古墳	92	4C後	銅鏡・釧・土師器ほか
関東	栃木	大田市	上侍塚古墳	114	4C末	粘土槨
関東	栃木	大田原市	下侍塚古墳	84	4C末	銅鏡・鉄製品・土師器
東北	山形	川西町	天神森古墳	73.5	4C末~5C初	須恵器、土師器
東北	宮城	美里町	京銭塚古墳	66	4C末~5C	
関東	栃木	那珂川町	那須八幡塚古墳	60.5	4C	銅鏡・鉄製品・土師器
北陸	石川	加賀市	吸坂A3号墳[7]	61	4C	
東海	静岡	富士市	浅間古墳	98	4C~5C	東海地方最大規模 天井石がない竪穴式石室あるいは粘土槨
北陸	石川	鹿島郡	雨の宮1号墳	64	4C~5C	
東北	福島	南相馬氏	桜井古墳	74.5	4C~5C	

出典：Wikipedia「前方後方墳」、備考等追加修正

資料2

